



そ の き

令和8年7月15日
新潟市立曾野木小学校
学校だより 第295号

<http://www.sonoki-e.city-niigata.ed.jp/>



「想像する」ことの大切さ

校長 中村 香

7月も半ばとなりました。前期前半を振り返ると、5月に実施した運動会では、一人一人のめあてに向かって全力で競技や演技に取り組む素晴らしい子どもたちの姿がありました。運動会を通して、ひたむきに努力すること、粘り強く取り組むことの大切さを学び、達成感を味わうことで自信を付けた子どもたちです。また、成功体験だけでなく、悔しさを味わう経験も大切な学びの一つです。運動会で学んだことを6月・7月の学習や生活の中で、一人一人がしっかりと生かすことができました。

6月の全校朝会＜全校音楽ミニ授業♪＞では、「雨」を表現した「雨だれ」（ショパン作曲）と「雨の庭」（ドビュッシー作曲）を比較聴取させることにより、旋律の特徴に着目しながら「どんな雨の様子か」を聴き取る学習を行いました。どの子も耳を澄ませて聴き、雨の様子を思い思いに豊かに想像することができました。限られた時間の中でしたが、6名ほどの子どもたちが聴き取り感じ取ったことを発表しました。「やさしい感じの雨」「少しずつゆっくり降る雨」「強くはげしく降る雨」「吹き荒れるような雨」など、想像した雨の様子を自分の言葉で表現することができました。私たちが日常生活の中で何気なく目にしている「雨」、何気なく聴いている「雨の音」も、音楽を特徴付けている要素である旋律やリズム、速度・強弱に着目することで、どんな様子かを「想像する」ことができます。

学校生活でも、「想像する」場面はたくさんあります。特に「相手の気持ちを想像する」ことは、これは使ってよい言葉なのかどうか、やってもよいことかどうか、そして、それを言われた人・そうされた人の気持ちを考えて行動する上でとても大切なことです。相手の気持ちを想像することは、相手のことを気遣い、優しい気持ちで接することにつながります。また、相手への思いやりは、自然と言葉遣いにも表れます。一人一人が相手の気持ちを想像し、みんなが笑顔になる「ぽかぽか言葉」がいっぱいの学校になるとうれしいです。一人一人の違いを受け入れながら、折り合いを付け、ぽかぽか言葉を使って接することができれば、きっとみんな笑顔で気持ちよく過ごせることでしょう。

曾野木小学校の図書館には、「ぽかぽか言葉」と「チクチク言葉」をはじめとした「ことば」に関する本がたくさんあります。それらの本を手にとって、「ことば」について考えてみたいと思う子どもたちが増えてほしいと願っています。素直で優しい子どもたちとともに、さらに「ぽかぽか言葉」いっぱい、素敵な笑顔輝く曾野木小学校にしていきたいです。

間もなく夏休みを迎えます。子どもたちには、前期前半を振り返るとともにめあて意識をもち、充実した夏休みを過ごしてほしいと願っています。様々な場面で五感をはたらかせて「想像すること」を大切にしながら… 夏休み明けには、さらに大きくたくましく成長した子どもたちと再会できることを楽しみにしております。

